

平成24年度
実施事業

事務事業名	野犬掃討等業務委託事業
-------	-------------

区分	No	名称
章	2	自然とともに暮らすまち
節	1	環境への負荷の少ないまちをつくる
施策	1	環境に配慮した暮らしの構築
小分類	2	環境保全活動の推進
主要な施策	5	⑤生態系の保全
事務事業番号	001	事業開始年度 平成 13 年度 事業終了年度 平成 - 年度 会計種別 一般会計

部 名	市民生活部	グループ名	環境対策室環境対策グループ
-----	-------	-------	---------------

事務事業の概要 《Plan・Do》

目的	(事務事業の実施目的を具体的に記入してください)
	狂犬病の蔓延を未然に防ぎ、公共衛生の向上を図るとともに、野犬の掃討、蜂やカラスの巣の除去などを行うことにより、市民の安全な生活を確保することを目的とする。
事業内容及び実績	(事業内容及び平成24年度の実績を具体的に記入してください)
	狂犬病予防法に基づき、畜犬の登録及び狂犬病の予防接種を実施する。また、野犬の掃討、蜂やカラスの巣の除去などを行う。 【事業内容】(平成25年3月31日現在) ・畜犬の登録及び狂犬病予防接種 畜犬登録数 2,578頭 予防接種数 1,961頭 ・野犬掃討等 野犬捕獲数 17頭 小動物死骸処理数 73件 カラスの巣の除去数 52件 蜂の巣の除去数 191件
今後の方向性	(次年度以降の事業展開における改善など今後の方向性を具体的に記入してください)
	市民の安全な生活を確保するため、本年度も引き続き、野犬の掃討、蜂やカラスの巣の除去などに努めるほか、畜犬登録等においては、平成24年度の実施された畜犬登録実態調査の結果を活用し、狂犬病予防注射の勧奨等に一層努める。
根拠法令等	(事業を実施する際、根拠となる法令・条例・規則・要綱等の名称を全て記入してください)
	狂犬病予防法、登別市畜犬取締及び野犬掃とう条例

事業費(財源内訳)の推移 《Plan・Do》

区分		単位	H23年度 決算	H24年度 決算	H25年度 当初予算	H26年度 見込	H27年度 見込
国庫支出金	名称	千円					
道支出金	名称	千円					
地方債	名称	千円					
その他	名称 狂犬病予防注射済票交付手数料、畜犬登録事務手数料	千円	1,679	1,667	1,755	1,755	1,755
一般財源	名称	千円	11,217	7,124	7,294	7,294	7,294
事業費 合計			12,896	8,791	9,049	9,049	9,049

指標の推移 《Check》

区分		単位	区分	23年度 実績	24年度 実績	25年度 目標	26年度 目標	27年度 目標
成果指標	① 狂犬病予防注射接種率	%	目標値	100	100	100	100	100
			実績値	78	76			
	② 犬の苦情処理件数	件	目標値	0	0	0	0	0
			実績値	11	12			

比較	《Check》
平成24年度実施以前又は実施中に見られた課題、問題点等 1. 登別市における狂犬病予防注射接種率(北海道平均) 平成21年度：77.08% (73.8%) 平成22年度：79.02% (73.1%) 平成23年度：78.31% (72.3%) 平成24年度：76.07% 2. 登別市におけるカラスの巣の駆除件数 平成21年度：40件 平成22年度：47件 平成23年度：41件 平成24年度：52件 3. 登別市における蜂の巣の駆除件数 平成21年度：96件 平成22年度：282件 平成23年度：486件 平成24年度：191件	左記の解決に向け行った取組や対策、工夫等 1. 近年において、狂犬病予防注射の接種率の変動は少なく安定した数値である。また、北海道と比較してみても毎年北海道平均を超える接種率となっている。今後さらに接種率を向上させる取り組みとして、平成24年度に実施された畜犬登録実態調査の結果を利用し、接種率の向上に努める。 2. 年間を通して大きな変化はなく、例年40~50件前後である。今後も業者との連絡体制を密にし対応していくこととする。 3. 年度毎の天候などにより件数が大きく変化している。今後も業者との連絡体制を密にし対応していくこととする。 また、巣を作られにくくするために、市民に草刈り等をするよう呼びかけていくこととしたい。

担当グループによる事務事業評価の内容（複数回答可） 《Check》

1. 事務事業の妥当性について		
市が事業主体として実施していくべき妥当性の高い事業ですか？	<input type="radio"/> ① 市が主体に行うべき事業である <input type="checkbox"/> ② 民間(事業者、市民団体等)でも実施可能である <input type="checkbox"/> ③ 国、道、他団体等との連携や広域化が可能である <input type="checkbox"/> ④ 国、道、民間等の事業と重複・類似している	判断理由及びその他所見 野犬及びカラスや蜂の巣の取扱いは危険であることから、市民の安全を確保するため、市が行うことが妥当である。
2. 事務事業の必要性について		
市民ニーズの状況等から勘案して、必要性の高い事業ですか？	<input type="checkbox"/> ① 市民、団体等から具体的な要望がある <input type="checkbox"/> ② 市民アンケートの結果から必要性が高い <input type="checkbox"/> ③ 社会情勢、地域事情等から必要性が高い <input checked="" type="radio"/> ④ 市民の大部分が関連することから必要性が高い	判断理由及びその他所見 野犬、カラス及び蜂による被害は市の全域に渡り発生する可能性があり、市民の安全な生活を確保するために必要性が高い事業である。
3. 事務事業の効率性について		
事業内容とコスト(事業費)のバランスがよい効率性の高い事業ですか？	<input type="checkbox"/> ① 低予算、少労力で高い効果をあげている <input type="checkbox"/> ② 市で実施するほうが民間委託より効率性が高い <input checked="" type="radio"/> ③ 多額の経費や労力を要するがやむを得ない <input type="checkbox"/> ④ 将来的に効率性を向上できる	判断理由及びその他所見 狂犬病が発症した場合の致死率が100%に近いこと、また、スズメバチの被害によって死者が出ることもあるため、これらを防止するためにも継続して実施していくべき事業である。
4. 事務事業の成果について		
目的を達成するための成果はあがっていますか？	<input type="checkbox"/> ① 成果指標の向上が見られる <input type="checkbox"/> ② 市民、団体等の声から成果を感じられる <input type="checkbox"/> ③ 目に見える形で成果があがっている <input checked="" type="radio"/> ④ 成果の把握は困難である	判断理由及びその他所見 ここ数年、犬の苦情及び接種率については大きな増減が見えないため、成果の把握は困難である。しかし、それ以前は成果が上昇していたことを勘案すると、事業を廃止した場合、状況が悪化する可能性もある。

①担当グループによる評価 《Check》

維持	左記の評価を選択した具体的な理由(根拠) 野犬については減少したが、飼犬の逃亡は依然として年何件もある。カラスの巣、蜂の巣、不快害虫等の苦情については、山沿いだけでなく住宅街からでも寄せられている。特に蜂(スズメバチ)については、全国で死者も出る被害が発生している。
-----------	--

②行政評価会議による評価 《Check》

改善	備考 蜂の巣の駆除に係る経費の有料化について検討すること。
-----------	----------------------------------

③総合的な評価(当該事務事業の方向性) 《Action》

改善	備考 H25年度の地区懇談会において、私有地における蜂の巣駆除に係る自己負担について意見を伺うこと。 駆除費用の定額制ではなく、駆除に係る手間に応じた区分を設ける等、段階的な駆除費用の設定について検討し、委託業者と折衝を行うこと。
-----------	---

〔評価区分〕

- ◆拡大(事務事業の目的を達成するために事業の規模や経費の大幅な変更が必要な事業)
- ◆維持(事業内容の根幹にかかわる部分については変更せず、不断の点検・検証による効率的な経費の活用や軽微な見直しを行い、継続的に実施する事業又は、事業計画等で予め年次的に実施する事業内容等を定めており、実施年度によって経費や実施個所等に変更が生じる事業)
- ◆改善(当該事業の目的を達成するために、現状の手段や経費、事業の方向性等、事業の根幹に関わる部分について見直す事業)
- ◆休止(暫定的に休止する事業)
- ◆廃止(事業の開始当初から目指していた成果が得られたなど、目的が達成された事業)
- ◆終了(事業の開始当初から予定していた事業期間が終了した事業)